

# ハレット岬シービー・フック

南緯72度19分 東経170度13分

第106南極特別保護地区ハレット岬に隣接した、シービー・フックの北西岸と南東岸にある2カ所の小さな区域。

## 主な特徴

- アデリーペンギンの大きなコロニー（約64,000ペア）
- 1956～73年に稼働していたニューゼaland/米国の基地の跡。既に閉鎖され処分されている。
- エディスト入江や、ハーシェル山（3,335m）を含むアドミラルティ山脈の景観。
- 第106南極特別保護地区ハレット岬の陸生生態系（植物、無脊椎動物、鳥類）。

ANTARCTIC  
TREATY

visitor site guide



## 概要

地形	シービー・フックは海に突き出た広い低地であり、粗い石が一連の浜堤に堆積して緩やかな起伏を生みだしている。ハレット半島北部の西側斜面にあたる険しいがれ場につながっている。
動物相	繁殖が確認されている種:シービー・フックとその先のがれ場に、アデリーペンギン ( <i>Pygoscelis adeliae</i> ) (2009～10年には約64,000ペア)、ナンキョクオトウソクカモメ ( <i>Catharacta maccormicki</i> ) (2009年には約37繁殖ペア)。アシナガウミツバメ ( <i>Oceanites oceanicus</i> ) とユキドリ (シロフルマカモメ) ( <i>Pagodroma nivea</i> ) もこの地域で繁殖している。 時折見かけられる種:オオフルマカモメ ( <i>Macronectes giganteus</i> )、コウテイペンギン ( <i>Aptenodytes forsteri</i> )、ヒョウアザラシ ( <i>Hydrurga leptonyx</i> )、ミンククジラ ( <i>Balaenoptera acutorostrata</i> ) 定期的上陸:ウェッデルアザラシ ( <i>Leptonychotes weddellii</i> )。
植物相 (植生)	訪問地区に重要な植物はない。
歴史的な建物	1956～73年に稼働していたニューゼaland/米国基地の跡。既に閉鎖され処分されている。基地にあった工作物が海岸に落ちていることがある。
その他	本地区は第106南極特別保護地区に隣接している。

## 訪問者の影響

既知の影響	基地が稼働しているときには、アデリーペンギンの繁殖コロニーに大きな影響を与えた。基地が閉鎖されて処分されると、ペンギンは基地の跡地に再び戻ってくるようになった。繁殖コロニーの復活は、科学的研究の重要なテーマである。
潜在的影響	野生生物の攪乱。歴史的な工作物の損傷あるいはその撤去。

## 上陸要件

船舶*	乗客200名以下の船舶。一度に1隻の船舶に限る。
航空機	観光の場合、シービー・フックのアデリーペンギンのコロニーから1/2海里（約930m）以内での上空通過と着陸は避けること。
訪問者	探検ガイドとリーダーを除き、常に上陸は一度に100名以内。訪問者20名あたりガイド1名。

## 訪問地区

上陸地区	訪問者の立入りは、シービー・フックの北岸～北西岸と南東岸に設けられた2つの訪問地区に限定される（図1と地図2参照）。 訪問地区Aは、東経170度14分19.3秒、南緯72度19分04.9秒と東経170度12分21.8秒、南緯72度19分07.9秒に挟まれたシービー・フック北岸～北西岸にある。 訪問地区Bは、東経170度12分54.3秒、南緯72度19分19.1秒と東経170度12分58.7秒、南緯72度19分15.3秒に挟まれたシービー・フックの南東岸にある。 推奨上陸地点は訪問地区AとBそれぞれの中にある。ただし、これらの地点が危険な状態のときは、両地区の間にある海岸線沿いの上陸地点が代用できる。 この代用上陸地点は、安全上の理由があるときのみ使用できる。また「ガイド付き徒歩地区」の項に示す事項に従わなければならない。
閉鎖地区	保護地区への立入りは許可証がない限り禁止されている。
ガイド付き徒歩地区	海氷がなく安全でない場合、2つの訪問地区の間にある保護地区の境界線沿い（海岸線沿い）は、よく指示に従って少人数グループで歩くことができる。10人につき1人のガイドが同行し、細かい指示に従って歩くこと。
自由散策地区	訪問者は定められた訪問地区内での自由散策が許されている（図1と地図2）。

\*:ここでいう船舶とは、12人以上の乗客を運搬する船に限る。



# ハレット岬シービー・フック

南緯72度19分 東経170度13分

## 訪問者の行動規範

### 上陸後の行動

上陸する前に靴を確実にきれいにすること。家禽類または家禽製品を含む食品（鶏肉、卵など）は海岸に持ち込んではならない。

ペンギンやナンキョクオオトウゾクカモメの営巣地を攪乱しないよう注意すること。ゆっくりと注意して歩くこと。野生動物からは安全のため5mの距離を置くようにし、動物に道を譲ること。動物の挙動に変化が見られたら、さらに距離を置くこと。

歴史的工物物を見つけた場合は、ガイドに知らせること。触れたり動かしたりしてはならない。

### 注意事項

エディスト入江には強い潮流があることが知られており、叢氷や砕氷が海岸に頻繁に打ち上げられる。

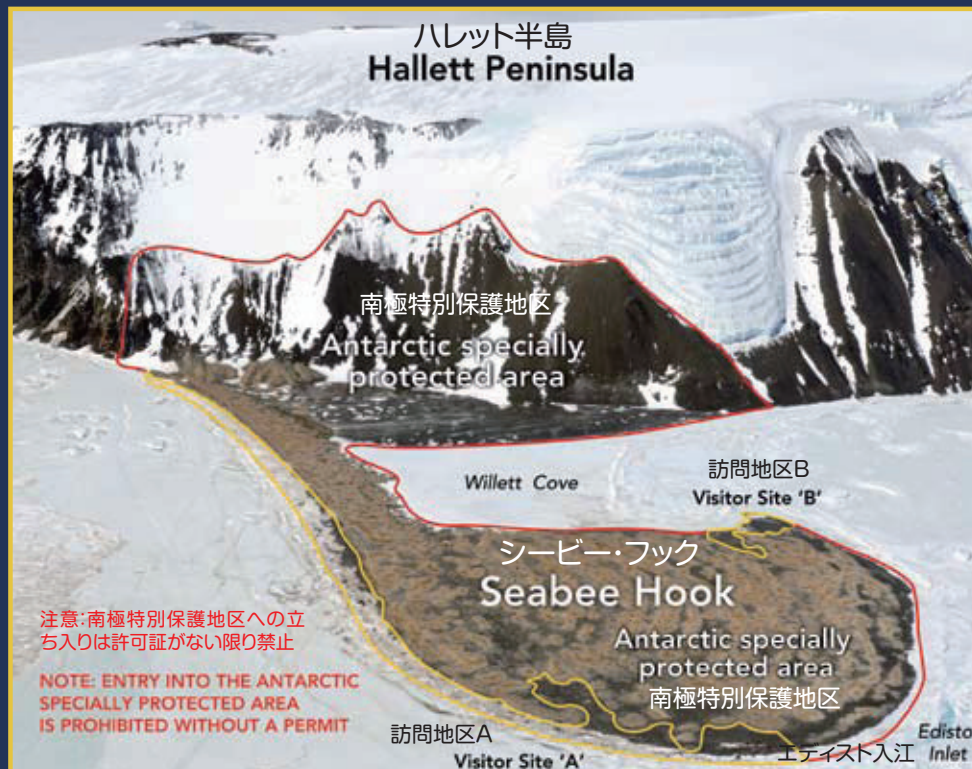


図1:シービー・フック  
(2009年11月26日、  
写真:C. ハリス)

